

私たちがつなぐディスパース

「光洋ディスパース」ユーザーの皆様、こんにちは。初めてご覧になった方、はじめまして。光洋ディスパース・ケアコンシェルジュです。私たちは毎日、日本各地の担当営業マンと同行し、北は北海道・南は鹿児島まで、さまざまな病院・施設様にお邪魔させていただいております。

コンシェルジュとは?

フランス語では、宿泊客のあらゆる要望、案内に対応する「総合世話係」というような職務を担う人の職名として使われています。ディスパースコンシェルジュはそこから取っています。光洋ではアドバイザーという役割はありません。アドバイスももちろん行いますが、ただアドバイスをするだけでなく、「ケア」という分野において、皆様のあらゆる要望において全力で応えていくことをモットーとして活動しています。ですから「コンシェルジュ」の名前のとおり私たちは決してNOとは言わないのです。

私たちのコンセプト

私たちコンシェルジュはそれぞれ得意分野が分かれています。私たちのコンセプトである「使う方の身になって」をモットーに、紙おむつ業者でありながら、できるだけ「おむつに頼らないケア」を考え、日々取り組んでいます。

コンシェルジュミーティング

定期的集まり、資料作りや新商品開発、担当エリアでの事例報告などを行い、皆様の悩みに対し、的確なアドバイスができるよう話し合いを重ねています。また、皆様のお手元に届く資料などは、各コンシェルジュが作成したオリジナルの物です。資料などのご依頼がありましたら、担当営業マンにお声掛けください。

その他の活動

コンシェルジュとして、皆様の病院・施設に訪問するだけでなく、私たち自身が様々なセミナーに参加したり、展示会や自治体の勉強会などにも足を運んでいます。

これからのこと・・・

まだまだ、私たちも学ぶことがたくさんあります。訪問先では新しい出会いと、色々な考えに直面し、すぐに答えが出せないこともあります。皆様方と共に学ぶことを忘れず、取り組んで参ります。コンシェルジュと営業マンと皆様の取り組みによって、皆様のケアの向上と、ご利用者さまの快適につながる努力をして参りますので、今後ともよろしくお願いたします。ユーザーの皆様、またお会いできる日を楽しみにしております。はじめてご覧になった方、近い将来、お会いできる日を楽しみにしております。

♪今月の人♪

光洋 大阪支店

梅田さつき さん

大切にしている物

頂き物の四葉のクローパーのキーホルダー。

入社のきっかけ

以前勤めていた病院で光洋の製品を使っていました。ちょうど入社したときに、新しくコンシェルジュの部署が出来る時期でした。今までの光洋にはアドバイザーのような人間はなかったので、新しくつくりあげていくという点でも「やってみよう」と強く感じました。

(自称利き酒師の梅田さん) 好きなお酒は?

宮城の浦霞・禅です! 宮城県へ行った際には必ず飲みます。

今後のビジョン

いままで病院で看護業務に携わってききましたが、医療面だけでなく、介護に近い生活の援助という形での勉強もしていきたいです。そして「おむつに頼らない生活を送っていただくためのお手伝いとして、今後も活動を続けていきたいです。」

皆様に一言

介護に関する悩み・相談事、小さなことでもどんなことでも結構です。一人で悩まないで、まずはご相談ください。



快護ポイント講座

おむつ使用者の強～い味方、アルケアさんから発売された新商品「リモイスバリア」をご紹介します!!



リモイスバリア

今回ご紹介する商品は、アルケアさんから新発売された皮膚保護クリーム『リモイスバリア』です。撥水力の強さはもちろんのこと、こちらの商品のすごいところは保湿性の高さにあります。普通撥水性の高い商品は保湿性はあまりなく、皮膚状態によってどちらかを選んで使用することが一般的ですが、この『リモイスバリア』はどちらにも効果のある商品として現在とっても話題の商品なのです。

べたつかないのに、しっかり撥水。『リモイスバリア』3つのポイント!!

撥水性を持つ保護膜が、汚れや外的刺激から肌を保護。頻繁な刺激にも優れた撥水性を発揮します。pH緩衝能により、強い刺激から肌を優しく保護します。また保湿成分配合で肌をしっとり滑らかに保ちます。撥水クリーム特有のべたつきが少なく、皮膚によくなじみ、滑らかで自然な使用感です。



適量(100cm²に対してさくらんぼ小粒大/約2g)を指先に取り



皮膚に塗り、クリームの乳白色が目立たなくなるよう均一に伸ばします。



撥水性の高い保護膜で、汚れや刺激から皮膚を守ります。

現在ご使用中の皮膚・排泄ケア認定看護師さんにお話を伺いました。

H市立病院・WOCナース K様・N様(本名は控えさせていただきます)

リモイスバリアをご使用してみた感想は?

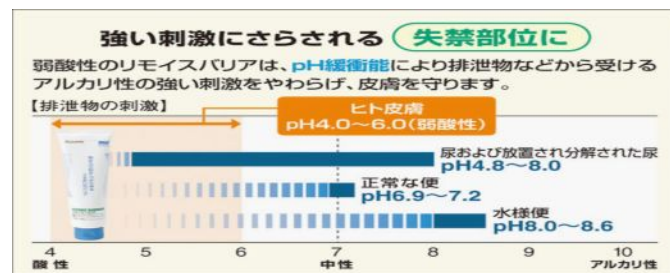
まず塗りやすさに違いを感じました。洗浄後の肌にもスーッと伸びるので少しの量でも十分全体に広がります。それから撥水効果の持続性。リモイスバリアを塗って、何時間もあとに陰部洗浄を行ってもパアッと湯を弾く感じが残っているのにびっくりしました。保護材独特のにおいが無いのもうれしいです。

効果を感じていますか?

私たちの病院はスキンケアに力を入れているので前から褥瘡や皮膚トラブルの症状はほとんどなかったのですが、リモイスバリアを使用してからはおしりがまるでほっぺのようにきれいになっていくのでご家族の方もとても喜んでます。退院後のために院内の売店にも置いてもらっています。

強い刺激にさらされる失禁部位に

弱酸性のリモイスバリアは、pH緩衝能により排泄物などから受けるアルカリ性の強い刺激を和らげ、皮膚を守ります。おむつを使用されている方のスキントラブルの予防にもってこいの商品なのです!!



リモイスバリアについてのお問い合わせはこちら

アルケアさんのホームページ: <http://www.alcare.co.jp>

光洋メディカルスマイルでも購入できます: 0120-3816-54

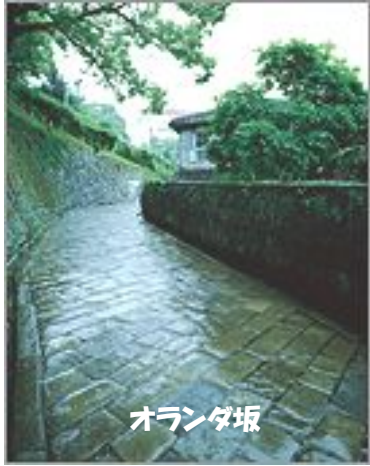
長崎県すこやか長寿財団様 すこやか介護講座



長崎は今日も晴れ…

長崎に来ました。今回は長崎県すこやか長寿財団さん主催の介護者教室での講師です。それにしても、有名な歌とはうらはらに、この日の長崎は快晴。何でも最近の長崎は日照り続きで「降って欲しいんですけどね…」とタクシーの運転手さんが嘆くほど。

しかし秋晴れの長崎の街は本当に素晴らしい！異国情緒たっぷりのオランダ坂や高台に美しく聳え立つ大浦天主堂・夕日に輝く大村湾はエキゾチックで、正に「長崎ならではの」風景。お声掛けくださったすこやか長寿財団の皆様へ感謝。セミナーへの意欲も高まります。



すこやか介護講座

長崎県すこやか長寿財団・長崎県介護実習・普及センター様では、「高齢者は地域社会全体で支える」という考え方のもと、様々な介護技術・介護機器の普及を図るための介護講座を開催しています。

1回目は「らくらく介護術」、無理なちからを使わないボディメカニクスを応用した、介護する人も介護される人も、負担の少ない介護技術の基本について、実技を通しての研修を行ったそうです。そして「レクリエーション」・「入浴」・「福祉用具の活用・車椅子」と続き、今回私が担当させていただいたのは第5回目の講座「排泄に関する介護・支援」。朝10時から夕方4時までの1日がかりのセミナーでした。

集まっていたのは県内在住の介護・看護現場で働く職員さんなど43名。経験年数も1年未満の方から10年以上のベテランさんまで様々。事前にアンケートを頂いていたのですが、皆さん排泄に関してはいろいろと悩みや困りごとが多いようで、セミナーへの期待度の高さを感じます。



午前の部

午前の部はスクール形式での講義。排泄器官の働きや尿失禁・便失禁の分類各排泄関連用具の説明などを行いました。排泄関連用具に関しては実際にポータブルトイレや採尿器・様々なメーカーのおむつやパッド・ストーマーなどおよそ120点を展示し、特徴の説明などを行いました。使い捨ての尿器や両サイドが開く形の失禁パンツなど、初めて見るおむつや失禁用品に皆さん興味津々の様子。展示しているおむつ類は全てお持ち帰りできますと伝えたら、セミナー終了時にはきれいになくなっていました。



午後の部

午後はグループワークです。4台のベッドを用意していただき、実際におむつの装着体験を行っていただきました。介護する側には「おむつの基本的なあて方について」を学んでいただき、介護される側には、洋服の上からですが、おむつ交換をされる恥ずかしさ・苦痛を体験していただきました。ポータブルトイレや差込み便器の援助ではポジショニングの必要性なども学んでいただき、クッションの使い方によって安定感がどう変わるかなどを体験していただきました。最初は緊張や恥ずかしさで静かだった会場も次第に和やかな空気になり、気がつくと笑い声にあふれていました。実施さながらの声かけも聞こえ、楽しみながらも真剣さは変わらない様子。「先生はこう説明していたけど、こういうのはどうですか」など、私が教えていただく場面もありました。



長いセミナーを終えて

実技も終わり、最後に皆さんから感想を聞いてみました。「実際におむつをはいてみて、どのような着け方が心地よいかを知ることが出来ました。今までつらい思いをさせていたことに気づかされました。入居者様も介助されていて、恥ずかしいことも気づくことが出来ました。いろいろなおむつがあることも知れてよかったです。」「相手の立場で考えてケアをすること...を改めて教えていただきました。また、自分で体験してそれがさらにはっきりしました。」「おむつ交換に自信がもてるようになりました。いかに自己流だったかを思い知らされました。今後の仕事に是非活かしていきたいと思えます」など、聞くと皆さん自分がおむつを装着した事がとてもよい経験になったようです。初めて会った方々に囲まれた中での装着体験はやはり相当恥ずかしかったと思います。でもわたしが今回のセミナーで一番感じて欲しかったのはまさにその部分、「ご利用者様の気持ちを知ること」だったのです。



いいケアは、自らの経験から生まれる

これは、私の考えるケアの本質です。「排泄ケア」は様々なケアの中でも一番1日の中で多く、しかも一番メンタル部分で配慮が必要なケアです。誰だって、本当は下のお世話になんて絶対になりたくないはず。でも、何らかの事情で、どうしても誰かの手を借りなければならなくなった時、差し出されたその手は優しく、暖かいものであってほしい。でも私たちは忙しい毎日の業務の繰り返しの中で、ついそのことを忘れてしまったり、流れ作業的になってしまったりして、冷たくぶっさらばうな手を差しのべてしまうことはありませんか？そして知らぬ間に大切なご利用者様・患者様・ご家族などを傷つけてしまったりすることがあるのではないのでしょうか？今回皆さんが経験したことが、明日からの業務の中でいい形で反映されることを願っています。そして「いいケアは自らの経験から生まれる」ということの意味を、肌で感じていただけたら嬉しいです。それにしても皆さん6時間の長いセミナー本当にお疲れ様でした。

